ワールドカップのスターたちと日本代表の光と影

すべてのサッカー場で逢おう

加部究
伯井寛 著

発行　株式会社パラス　　発売　ブレーン出版

すべてのサッカー場で逢おう

ワールドカップのスターたちと日本代表の光と影

加部究　伯井寛

すべてのサッカー場で逢おう
ワールドカップのスターたちと日本代表の光と影
1994年6月24日　初版第一刷発行

著　者　加部　究
　　伯井　寛
発行人　宮崎満教
発　行　株式会社 パラス
　　東京都港区西麻布1-4-40マキビル4F
発　売　ブレーン出版株式会社
　　東京都千代田区猿楽町1-3-1
　　TEL 03・3293・1471 FAX 03・3292・8534
印　刷　株式会社 ヒロ・ブレーン
　　[写真提供　原悦生　毎日新聞社]

© Kiwamu Kabe & Kan Hakui　Printed in Japan 1994

すべてのスポーツの中で、
もっとも知的で美しいスポーツ…。
それがサッカーである。
私はそれを信じている。

――ヨハン・クライフ――

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

はじめに

日曜日の草サッカー場では、頭の薄くなったペレや、腰の切れが悪いプラティニ、お腹が突き出たクライフ、息使いが異常に荒いマラドーナの姿を見ることができます。

サッカーはスタイルのゲームです。それぞれの名プレイヤーにはそれぞれ独特のスタイル（それはプライドといってもいいかも知れません）があり、そのスタイルにサッカーファンは魅かれるのです。

そして実際に自分がプレーする時、いつしか自分の憧れだったプレイヤーのスタイルを真似するようになります。

草サッカーでボールを追うサッカー好きたちのプレーをよく見てごらんなさい。彼らは憧れのプレイヤーのようにボールを扱うことはできませんが、どことなくそのプレースタイルがクライフに似ていたり、マラドーナに似ていたりします。技術ではまったく追いついていませんが、意図は十分に感じられて、それが微笑ましかったりするのです。

世界のスーパープレイヤーたちの美しい技術と創造性は、彼らの生き方そのものの反映です。サッカーのプレースタイルには、その選手の価値観や人生観が集約されるのです。それが私達

の心を強く打ち、自分の好きなプレイヤーたちが胸に刻み込まれていきます。

本書に登場するプレイヤーたちは、いずれも強い個性と夢のようなプレーでワールドカップに登場し、世界のサッカーファンに忘れられない思い出を残してくれた名選手ばかりです。そして、その選手たちのプレースタイルの背景がわかるエピソードが満載されています。そして、これからそうなって欲しい日本の選手の話もみなさんの心をとらえるでしょう。

サッカーを愛するすべての人たちにぜひ読んでもらいたいと思います。僕もこういう本を待ち望んできました。

１９９４年６月

明石家さんま

すべてのサッカー場で逢おう

ワールドカップのスターたちと日本代表の光と影

目　次

はじめに　3
◉ペレ――世界サッカー史上、最初で最後の「王様」　11
◉ルート・フリット――諦めないで!!狼たちを恐れるな!!　19
◉ゲーリー・リネカー――世界の得点王が今も繰り返し見るビデオ　28
◉釜本邦茂――フリットやファンバステンと比べても問題がない　37
◉マルコ・ファンバステン――サッカーを愛したのではなくクライフを愛した　45
◉ローター・マテウス――世界一を決めるPKを蹴らなかった代償　54
◉ラモン・ディアス――マラドーナに拒絶され続けた天才シューター　63
◉中山雅史――アジアのサッカー記者たちが口ずさんだ応援歌　73

◉ ポール・ガスコイン――愛すべきやんちゃ坊主の無垢の涙 83
◉ ハロルド・シューマッハー――「セビリアの怪物」の長く孤独な戦い 91
◉ ラモス瑠偉――日本サッカー伝導師の見果てぬ夢 99
◉ ゲルト・ミューラー――「爆撃機」が自殺未遂から立ち直った理由 109
◉ フランツ・ベッケンバウアー――すべての栄光を手にした「皇帝」のたった一度の醜態 117
◉ 加藤久――教育者とプレイヤーのふたつの責任感 125
◉ パオロ・ロッシ――わずかな試合で人生のすべての幸運を使い果たした男 134
◉ カールハインツ・ルンメニゲ――記録より記憶に残るオーバーヘッドキック 142
◉ 木村和司――ワールドクラスのフリーキックの伝説 151
◉ ミッシェル・プラティニ――「将軍」のPKミスの知られざる後遺症 159

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

◉ ジーコ――2度のボールタッチで試合の運命を変える影響力 167
◉ 柱谷哲二――「カタールの悲劇」の中でたったひとりファンに挨拶した主将 176
◉ レネ・イギータ――茶番劇は新しいサッカーのスタートだった 184
◉ ビンチェンツォ・シーフォ――イタリア人の血を引くベルギー人のイタリアへの復讐 192
◉ ピエール・リトバルスキー――フランスの香りを漂わせるドイツ人 200
◉ 井原正巳――僕はスイーパーではなく、リベロと呼ばれたい 209
◉ 三浦知良――日本のエースがダンスを踊らなくなる日 217
◉ ディエゴ・マラドーナ――落ちた偶像が見せた最後のスーパープレー 226
◉ 杉山隆一――20万ドルの価値がつけられた「黄金の左足」 235
◉ ヨハン・クライフ――わがままな天才の今なお輝やくカリスマ 243

世界サッカー史上、最初で最後の「王様」

ペレ

40年10月23日生まれ。本名エドソン・アランテス・ド・ナシメント。「キング」の愛称で呼ばれ、56年9月から74年2月までの現役生活で1254試合に出場し、1216ゴールを挙げている。その後、再び北米リーグで復活し3年間で65得点。W杯は17歳の時に初めて出場し優勝。計4度出場し、3度も優勝を経験した。ペレを誘うために交渉に臨んだ欧州のチームは白紙の小切手を用意した。

90年10月23日、本人が不在にもかかわらず、ペレの自宅周辺はまるでお祭り騒ぎを思わせるような喧騒に包まれていた。

記念すべき彼の50回目の誕生日を祝うためにブラジルの国内外を問わず大勢の人たちが集まり、何十台ものテレビカメラがそれを遠巻きにしていたのである。

このニュースを伝えていたのはペレの母国ブラジルとは正反対に位置するマレーシアの新聞で、ただそれだけの記事のために一面の半分以上を割いていた。

ちょうどペレが大統領に立候補するのでは、と噂された時期だったこともあるが、引退して13年間も経つというのに「サッカーの王様」の人気は依然として衰えを知らないようだった。

この些細なニュースでもわかるように、ペレに対する敬愛は国境を越えて世界中の国から寄せられている。

ペレがいつどこでもファンの期待を裏切らないどころか、ファンの想像や期待をはるかに上回るプレーを披露してきたことの証とも言えるだろう。

本来はブラジルと犬猿であるはずのアルゼンチンで育ったあるプレーヤーは今から20年以上前にアトレティコ・ウラカン・スタジアムで起こった出来事を今でも昨日のような興奮を添えて話す。

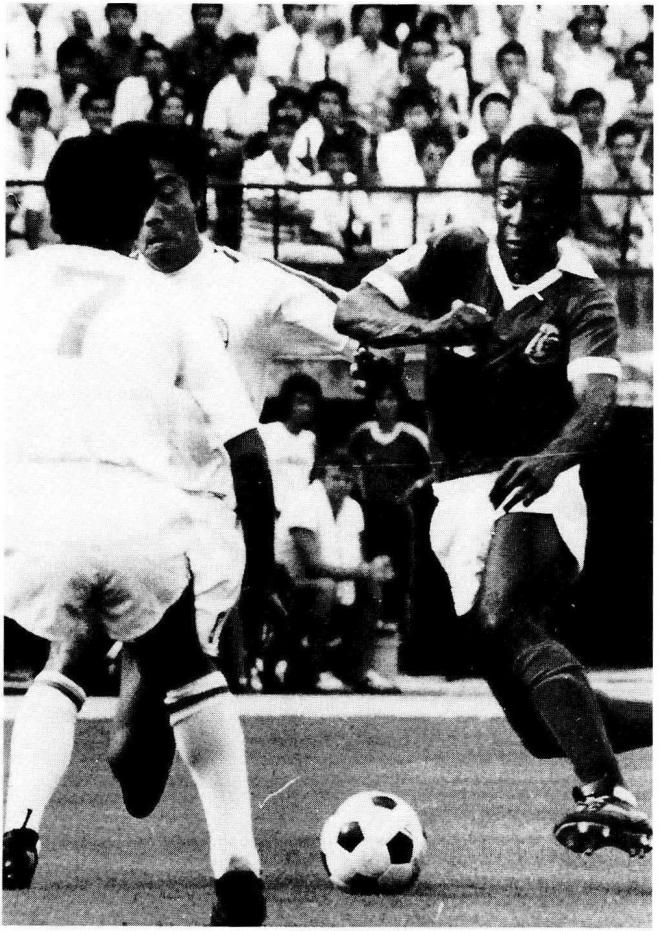
それは、ペレの所属する「サントス」の遠征試合でのことだった。

「当時『ウラカン』と言えば、カルロス・バビントン、レネ・オウセマン、それにミゲル・アンヘル・ブリンディシらの名手（すべて74年W杯代表）を揃えアルゼンチンを代表するチームだった。でも、その『ウラカン』を相手にペレはとんでもないゴールを決めたんだ。」

ペレがボールを受けたのはほんの少し相手陣内に入った辺りだった。後ろから来たボールを胸でワントラップすると、突然、ジャンプしてオーバーヘッド。ペレの蹴ったボールは大きな弧を描いてゴールに吸い込まれていった。

「相手のGKがやや前に出ていたからね。何が起こったのか、一瞬、誰もわからなかったんじゃないかな。何しろ、オーバーヘッドで40メートル以上も蹴ること自体滅多に見られないのに、それで得点してしまったんだ」

アトレティコ・ウラカン・スタジアムに詰めかけたファンは敵にゴールを奪われたにもかかわらず、いつまでもペレに賞賛の拍手を送り続けたという。



ペレはアメリカワールドカップを前にまた結婚をした。サッカーの王様は王様としての人生を楽しんでいる。

ペレ自身、オーバーヘッドによる公式戦のゴールは生涯でも「3回だけ」だそうなので、確かにここに集まった観衆は非常に幸運だったと言えるだろう。

とにかくペレの名は彼が17歳の時から一気に世界の至る所へと浸透していった。

初めてカナリア色のブラジル代表のユニフォームを着て臨んだ国際舞台、１９５８年のワールドカップで早くもペレはその天才ぶりを遺憾なく発揮したからである。

特に決勝戦、ブラジルは開催国スウェーデンとの対戦となったため悪役に回っても仕方のない立場だったが、逆にペレの幻想的なゴールで相手国のファンさえ魅了してしまう。

リードホルムのゴールで先制したスウェーデンは前半のうちに逆転を許したものの、後半に入る段階ではまだ1点差で十分に勝利のチャンスを残していた。

だが、54分に見せたペレのプレーは完全にどちらがチャンピオンにふさわしいかを見せつけるものだった。

ゴール前でクロスボールを右大腿で受けたペレはそのトラップで一人マークを外し、さらにカバーに入ろうと体を寄せてきたディフェンダーも同じように右腿で頭越しにかわしてしまう。

そして、飛び込もうとするＧＫより一瞬早く落下点に入り、そのままやはり同じ右足のボレ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com